

- ② 心のたすきを今につなぐ 親切運動は我が校の誇り
新潟県 長岡市立深沢小学校 / 静岡県 富士市立須津中学校
- ⑥ 「小さな親切」の実践で 学校が変わる
講師 「小さな親切」運動香川県本部 副代表 岡内利文
- ⑦ 平成29年度 全国表彰式 表彰者紹介
- ⑧ あいさつ名人発見!
あいさつと笑顔が元気と癒しをくれました
セコムジャスティック株式会社東京本部 長村由香
- ⑩ 酔いどれ脳科学
飲んだら愚痴るな! ヤケ酒は意味なし?!
- ⑪ 親切の科学
「小さな親切」を職場にふりまいたら、驚きの実験結果が!!
- ⑫ 熊本にたくさんの笑顔が咲いた!
山鹿市立鹿北小学校 / 熊本市立大江学校
- ⑬ コラム「これってどうなの?」 / 「のんちゃんのおすすめスポット」
- ⑭ Information & HIROBA



表紙写真

- ①: 山口県岩国市の名物「岩国寿司」
- ②③: 「しんせつタイム」では普段しない場所を清掃 (長岡市立深沢小)
- ④: 実行した親切が貼られた「親切の木」(長岡市立深沢小)
- ⑤: 右側通行を促す折鶴 (富士市立須津中)
- ⑥: たくさんのお花がお出迎え (長岡市立深沢小)
- ⑦: 大人気のキャラクター「貢犬」くん(富士市立須津中)

「小さな親切」誌は、季刊発行
春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

平成 29 年 11 月 1 日発行 通巻 508 号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-20-4
TEL. 03-3263-2866 FAX. 03-3263-3838
<http://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社

© 無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。

デザイン・DTP 有限会社リトルフット

イラスト P10: 清水 稔 / P13: 安彦麻理絵

恒さんが行く!



お見事!! 日本の若人たち

代表 鈴木恒夫

私 は人一倍の“スポーツ好き人間”。とりわけサッカーについては誰にも敗けない知識の持ち主と自負している。残念ながら自分でプレーするには体がいうことをきかないトシになってしまっているが……。

幼い頃、体が小さく、気も弱かった私を、なんとか一人前の少年に育ててくれたのがサッカーだ。中学生の時の担任がサッカー部の監督で、親友がゴールキーパー。誘われて私も入部。体を動かすことだけは人並み以上だったから、私はメキメキと上手になった。

当時、小学生でもサッカーをする子はほとんどゼロ。横浜市内の中学校でサッカー部があるのは6校ほどでしかなかった。わがチームは監督のみごとな指導で常勝中学のチームとトップ争いをするほどの力をつけていた。

FWだった私のプレーぶりは評判だったらしい。高校進学が近づいた頃、私は担任からこう言われた。「お前なら、もう少し鍛えてもらえば将来は日本代表チームの一人ぐらいになれる。センスが抜群だ。お前がその気なら、名門の私立高校に推せんしてやる。どうだ?」

そ う言われたものの、作文を女性教師にいつもベタほめされていたうえ、弟の戦死を知って号泣した父の後ろ姿が胸にこびりつき、「ヨシ、戦争だけは許せない。オレは新聞記者になって、父の思いにむくいよう」と心に決めていたので、お断りしたのだった。

進学した横浜翠嵐高校もサッカーが強く、私はすぐ入部して練習に明け暮れていたが、2年生になった時、2番目の兄からこう言われた。「お前、サッカーばかりやってると、卓球狂いだっただれみたいに大学入試に

失敗し、浪人になる。もうサッカーはいい加減にしろ」。 「そうかもね」と気づいた私は次第にサッカーから離れ、最短ペースで大学進学——新聞記者の道を歩んだ。それでも私の思いは断ち切れず、衆議院議員当時も「サッカー議員連盟」を超党派でつくり上げ、中国の国会議員チームとの友好親善試合を大連にまで渡って実現したりしたものだ。

な ぜこんな自慢話ばかりを——とお思いだろうが、私はことし8月31日、日本代表チームが豪州に2-0で勝ち、来年6月のワールドカップ(W杯)への6大会連続出場を決めた試合に感動したからだ。何よりも、これまでのベテラン選手たちに代わって登用された20才そこそこの若手選手の見事なプレーぶりに、今日の日本社会が未来に向けて築き上げつつある輝きを感じたのだ。

半世紀以上も前はゼロだった少年サッカーチームを振り返ると、今や横浜市内だけでなんと160以上のチームに幼少年の男女が参加。こうした底力の広がり、サッカー世界への飛躍の原点なのだ。

スポーツ全般に限らず、文化、芸術、科学などなど、様々な分野での、目を見張るばかりの最近のニッポン若人たちの大活躍。この力を育ててくださっている方々のご努力、知恵、愛の深さなどに、あらためて心から敬意を捧げたい。

私たちの「小さな親切」運動も、もちろん長きにわたる皆様のお力添えで、社会を発展させ続けている底力の源。ほんとうにありがとうございます。